

「大里小中学校の弓矢踊り・面踊り」伝承活動の取組

- 1 学校名 三島村立大里小中学校
- 2 学年・人数 小学2年生から中学3年生（計16人）
- 3 日時・場所
 - (1) 練習の日時・場所
大里小中学校校庭（9月）
 - (2) 発表の場所・日時
大里地区・大里小中学校大運動会，大里地区健康広場（10月）
- 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について
 - (1) 名称
弓矢踊り（ゆみやおどり），面踊り（めんおどり）
 - (2) 由来
 - ア 弓矢踊り
1584年肥前の太守，龍造寺隆信に攻められた有馬氏を助けるために，島津義弘の弟家久は島原に出陣し，肥前の軍勢を撃破した。この時の家久の子，豊久は15歳で参戦し，見事な若武者ぶりを披露した。この弓矢踊りは，豊久の勇猛果敢な戦いの様子を表したものである。
 - イ 面踊り
五穀豊穰と子孫繁栄，生産を祈る踊りで，手には，すりこ木としゃもじを，腰にはひょうたんを持ち，生産を意味している。
 - (3) 構成等
 - ア 弓矢踊り
最初はテンポの遅い曲調で，烏帽子をかぶった島津軍と兜（かぶと）をかぶった龍造寺軍の2列に別れ，鉦（かね）と太鼓の音に乗って入場してくる。各列先頭の2人が島津豊久役と龍造寺隆信役となり，お互いの口上をあげた後，地唄手（ジュウテ）の歌に合わせて，鉦や太鼓で調子を取りながら優美に踊る。弓を左手に持ち，背中に矢筒を背負い，歌に合わせて弓を左右に大きく振りながら前後に大きく動き，その後，矢筒より矢を取り出し，弓につがえ，弓を射る様子を表現している。途中で，テンポが速くなり，鉦と太鼓が両軍の間を片足跳びで移動すると，両軍の踊りも歌と共に素早くなってくる。
 - イ 面踊り
思い思いの古布をまとい，ビロウの葉，シュロの皮，ガジュマルのヒ

ゲ根等で身を飾り、腰にはヒョウタンを下げ、顔には鬼、おかめ、ひよっこ、かつば等の異相の面をかぶり、右手には「メシゲ」、左手に「すりこ木」を持った「メン」たちが、会場の右手と左手の2組に分かれ、「ヒョウ、ヒョウ」という奇抜なかけ声を出しながら出てきて踊る。地唄手（ジュウテー）の人たちの歌に合わせてながら、「メシゲ」と「すりこ木」を頭上で軽くたたき合いながら、片足跳びをしながら地面に座った「メン」の前後を移動する。「メシゲ」と「すりこ木」で軽く両脇に触れて、次の「メン」に受け継ぎ交代する。

5 保存会や地域との連携の具体

1学期末と9月にかけて3回ほど、地唄手（ジュウテー）の方々3人を、「ふるさと先生」として学校にお招きし、踊り方等のご指導を依頼している。また、地域の行事（夏祭りの奉納踊り、八朔踊り（はっさくおどり））に学校職員有志も参加している。教師自身が地域の行事に参加することにより、伝統の踊りを体験、地域の方々から直接ご指導いただき、児童生徒への指導に役立てている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 小学校と中学校の面踊り、弓矢踊りの練習の時間を合わせた。
- (2) 小中合同の練習時、「ふるさと先生」に指導を依頼した。
- (3) 弓矢踊りで使う、弓と矢を児童生徒数分を作製した。
- (4) 弓矢踊りで使う「兜（かぶと）」を児童生徒数分を作製した。
- (5) 運動会前日最後の練習で、実際の衣装を着けて練習できるよう保護者に着付けを文章で依頼した。（踊り揃え）

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



弓矢踊り 練習



弓矢踊り 運動会当日



面踊り 練習



面踊り 運動会当日

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 今回は大将を引き受けることになり、「今までと同じ練習ではいけない」と思い、もう1人の大将役と2人で地区の人に習いに行き、日が暮れるまで練習に励みました。怠けてしまいそうになる時もありましたが、2年前に転校してきて本番までの1週間で必死に覚えた時のことを思い出し、気合いを入れ直し頑張りました。いろいろな人に支えられてこの踊りを踊ることができ、苦手だったこの踊りも大好きになりました。この踊りがいつまでも受け継がれていけばいいなと思います。
- ・ 私は、今年大将を任されました。この2つの踊りはお盆と「八朔」に踊られています。しかし、本番で女性が踊ることはできないので、それだけ運動会での踊りには熱が入りました。「もっと完璧に踊りたい」と思い、もう一人の大将役の友人と地区の踊りに詳しい方に教えていただきました。今まで自分では精一杯踊っているつもりでも、実はそうではなかったことに気づかされました。本番では、小さなミスはありましたが、心残りのない踊りができ、うれしさと達成感がこみ上げてきました。この気持ちは一生忘れません。
- ・ 学校側が地区の伝統芸能であるこれらの踊りに、児童生徒を積極的に参加させていただき大変感謝しています。
- ・ 受験、学業への支障もあるのではないかと不安もあるが、踊り手が年々減少する中、できることならこの形を継続させていただきたい。
- ・ 小中学校時代に地元で踊った子どもたちが成人し、再び夏祭り等で島に帰ってきた時に、先祖に感謝する気持ちになってくれたり、地元の人たちと一緒に踊ってくれたりするなど踊りの輪が広がって欲しい。
- ・ 今回の運動会の踊りでは、友達と一緒に自分たちで練習をするなど、学校の勉強以上に積極的に動いていました。この踊りを通して、郷土愛も育まれていくのではないのでしょうか。
- ・ 体操服ではなく、伝統的に伝わる衣装を子どもたちが嫌がることなく着

て、和気あいあいとして踊っている姿に好感が持てる。